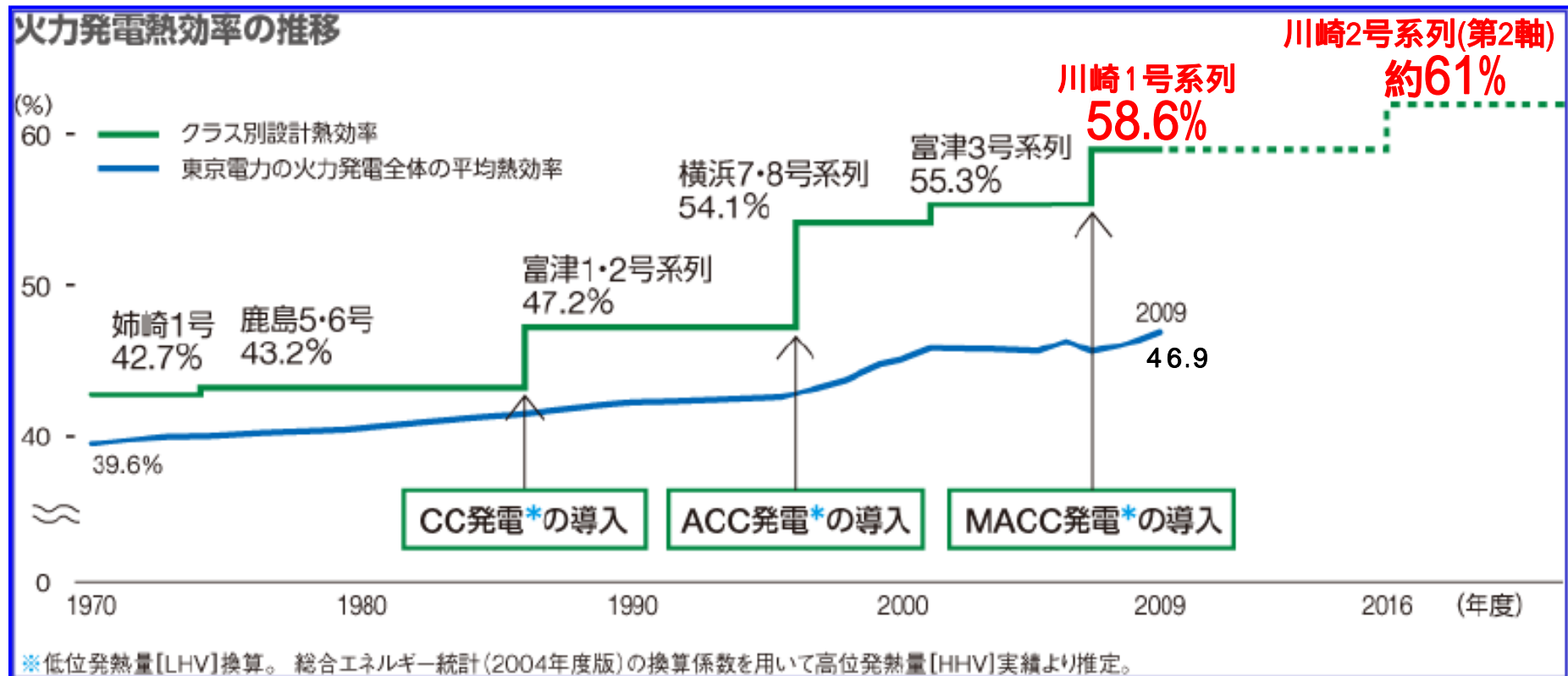
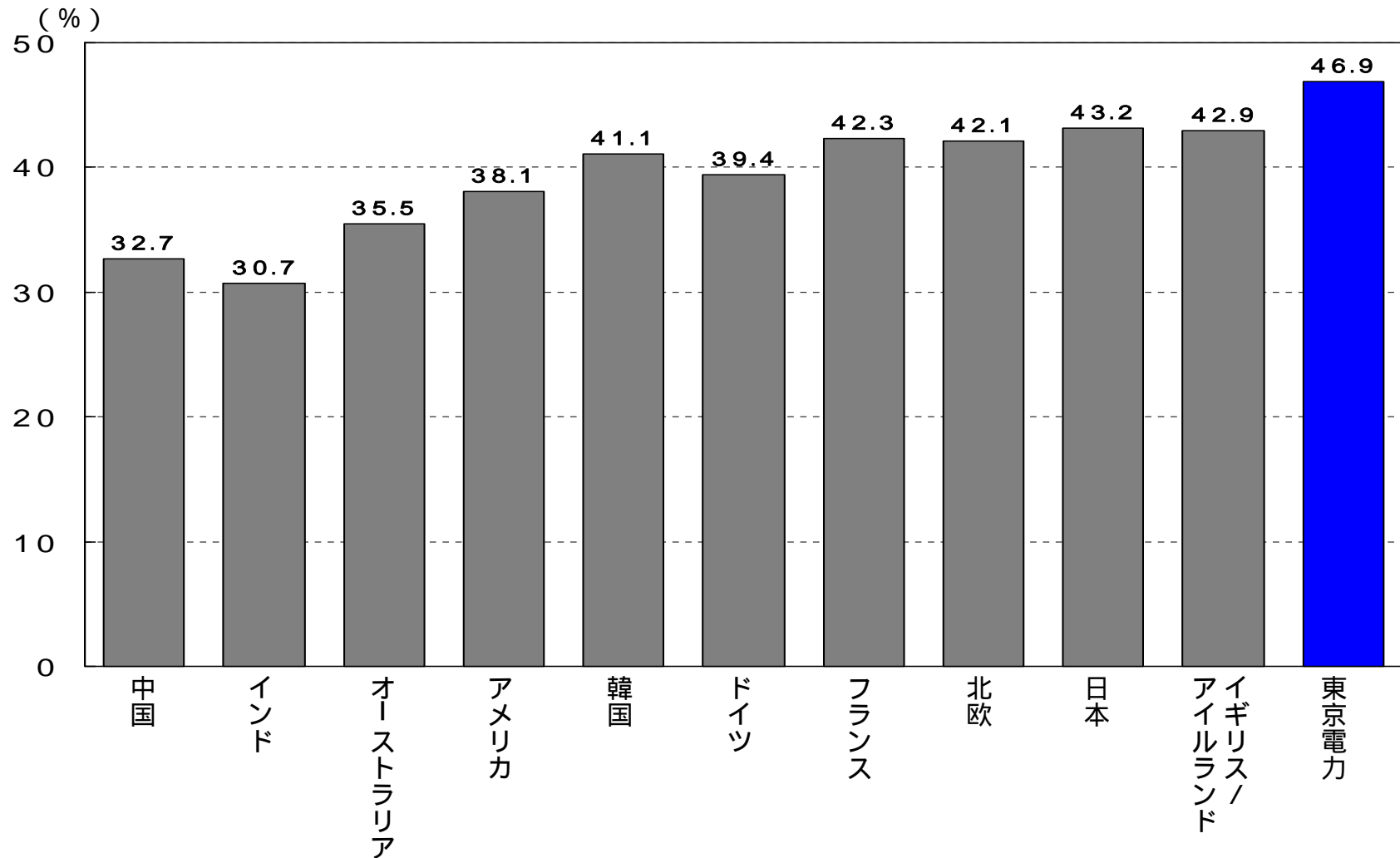


火力発電所の熱効率（東京電力）

- 1980年代半ばからLNGコンバインドサイクル発電を導入し、平均熱効率が向上
 - ・ 2007年には1,500級の「MACC」（世界最高水準の熱効率約59%）を導入
 - ・ 2016年には1,600級の「MACC」（熱効率は約61%）を導入予定
- 平均熱効率が1%向上すると、CO₂排出量は約190万トン削減



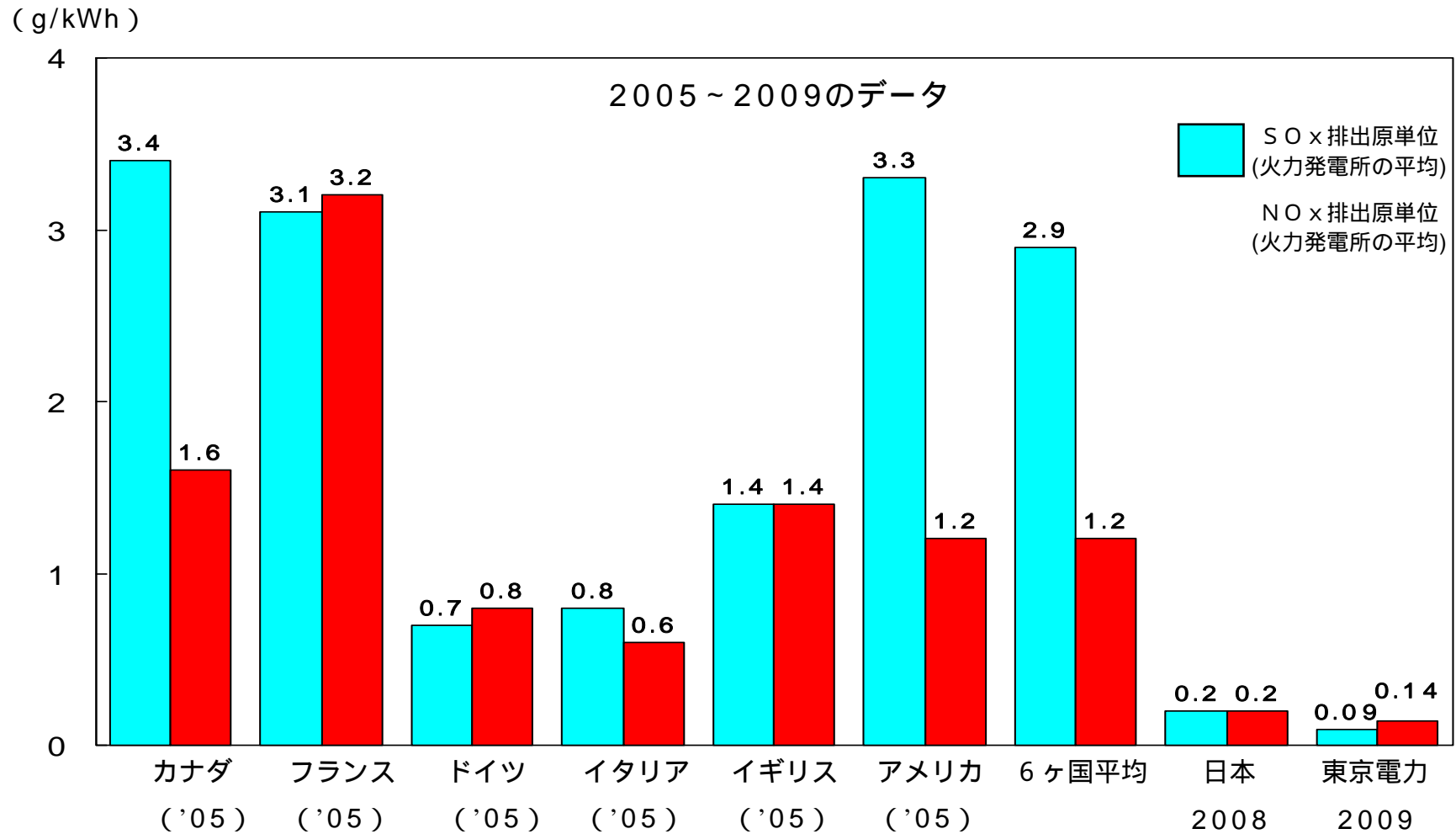
火力発電熱効率の国際比較



- (注) 1. 熱効率は石炭、石油、ガスの熱効率を加重平均した発電端熱効率(低位発熱量基準)。
2. 自家発電設備は対象外。
3. 東京電力のみ2009年度の実績。その他は2006年度の値。(東京電力の2006年度の実績は46.1)

(出所) ECOFYS 「INTERNATIONAL COMPARISON OF FOSSIL POWER EFFICIENCY AND CO₂ INTENSITY」

火力発電所のSOx・NOx排出原単位の国際比較



(出所) OECD ENVIRONMENTAL DATA COMPENDIUM 2006/2007 及び
「IEA ENERGY BALANCES OF OECD COUNTRIES 2008 Edition」より試算。
日本は電気事業連合会調べ

火力発電所のSOx・NOx排出原単位の推移（東京電力）

